

日野川の源流と流域を守る会

会報

# しのがわ

第47号



日野川フォトコンテスト2024スマホ部門応募作品

題名：オシドリの楽園

撮影者：平野 ひろ子

撮影地：日野郡日野町根雨

## ＝目次＝

- イベント紹介 ..... 2～5  
森林整備体験と自然観察会  
川海の繋がり体験／学ぼう!遊ぼう!みんなの日野川学校  
日野川の自然環境と希少生物を守る体験活動／日野川源流探訪  
日野川支流の魅力発見ツアー
- 普及啓発活動報告 ..... 5
- 植物紹介／新規会員募集案内／日野川憲章 ..... 6

『日野川の源流と流域を守る会』の活動は、県民の参画と協働による森づくりを推進する『豊かな森づくり協働税』を活用しています。



# 令和7年 イベント紹介

今年開催したイベントについて報告します。

日野川源流や流域の魅力を皆さまに知っていただくため、5月から10月にかけて6つのイベントを開催しました。

## 森林整備体験と自然観察会 5月25日



森林整備の大切さについて解説



間伐作業の解説

当日は小雨の降る天気でしたが、会員15名に参加いただき、午前中は日野町上菅で森林整備体験を、午後は鵜ノ池周辺で自然観察会を開催しました。森林整備体験では、林業を営んでおられる須山里実氏を講師に、ノコギリを使ってスギを伐倒する体験、ヒノキの幹の輪切り体験、また、講師による重機を使った伐倒等を見学しました。参加者からは、今回、実際に木を鋸で切り倒すという普段できない貴重な体験ができ嬉しかった、初めての体験だった、森林の整備は大変な労力と資金がかかるのを実感した、森林整備の機械も初めて見て素晴らしかった、間伐作業に感動しましたとの感想がありました。



輪切りを体験

午後は鵜ノ池周辺で達磨晋氏、矢田貝繁明氏、藤原文子氏を講師に自然観察会を行いました。参加者からは雨の中でも楽しく歩けた、ササ笛にする遊びが楽しかった、鵜の池周辺は季節をかえてまたゆっくりと歩いてみたい等の感想がありました。



鵜の池の森について説明を聞く参加者



植物について解説

## 川海の繋がり体験 6月21日



漁船からの水揚げの様子を見学しました



川と海の繋がりによって魚が育っていることを講師の先生から教えていただきました



水揚げされたマグロ

今年の川海の繋がり体験は、境港市の境港水産物地方卸売市場に行きました。

講師の境港水産振興協会 景愛子氏、松本美穂子氏、境港水産事務所 山本健也氏に川が陸と海とをつなぐ役割について教えていただきました。

森林から流れ出す豊富な栄養分は、川を経て海へと供給されること、この仕組みが多く魚が住む豊かな海を育てていることを学びました。

講師の解説や市場見学を通して我々が受ける海の恵みと密接にかかわっている川海の繋

がりについて学びました。

当日はセリのため、たくさんのマグロがあり参加者からは初めて見たなど歓声があがっていました。

## 学ぼう！遊ぼう！日野川学校 7月19日



生き物の見つけ方を教えてもらいました



アユの放流

日野川の自然と生き物の豊かさを遊びながら学ぶ「学ぼう！遊ぼう！日野川学校」を、小学生と保護者18名に参加いただき、日野川中流に当たる日野町にある黒坂カワコふれあい公園で開催しました。

神庭賢一氏、千村隆司氏、佐藤幹太氏を講

師に、参加者全員が網を持って、川にいる生き物を採取しました。流れに足を取られながら、追いかけたり、追い込んだりし、小魚やカエルを見つけていきました。見つけた生き物は、講師に解説してもらいながら、楽しく観察しました。生き物の中には、希少な魚であるオヤニラミやアカザも発見することができました。また、日野川水系漁業協同組合によるアユの放流を見学し、アユも観察しました。採取した生き物は、観察が終わったあと元気に生きていくことを願いながら放し、日野川に帰っていきました。

日野川の川の生き物に触れる楽しいイベントとなりました。



見つけた生物の解説

## 自然環境と希少生物を守る体験活動 7月27日

2021年に実施する予定でしたが、コロナ禍真っ只中の為に実施することができず、4年越し、念願の体験活動になりました。

岡田純氏を講師に人工巣穴の清掃と、人工巣穴上流のヨシ抜き取り作業を実施しました。4年前には全く生えていなかったヨシが大繁茂して、川の流れが変わり巣穴への水の流れが止まったような状態になっていました。

巣穴に入って中の土砂を取って清掃する人、ヨシを根元から抜き取り作業をする人たちの奮闘によって水面が見えるようになり巣穴へ水が流入するようになりました。ずぶ濡れ、泥だらけになりながらの達成感は大きかったです。とても暑い日でしたが、この景色の変化を眺めて皆さんは大満足の様子でした。参加していただいた皆様、大変ありがとうございました。この人工巣穴へオオサンショウウオが入ってくれることを祈っています。

午後は場所を移動して、支流の生き物観察会を実施しました。色々な生き物がいて、捕まえるたびに子ども達の歓声が上がっていました。中にはライフジャケットを着たまま流されて遊ぶ子どももいて、とても楽しそうでした。オオサンショウウオも大小合わせて4匹見つかりました。無事に世代交代できる川の環境になればいいですね。



ヨシ清掃前



ヨシ清掃後



人工巣穴清掃



オオサンショウウオ

## 日野川源流探訪 9月27日



源流に向け進む参加者

毎年の恒例行事の一つである日野川の源流を目指す体験会「日野川源流探訪」を開催しました。日野川の源流と源流の碑は普段入ることのできない国有林内にあり、許可を得て、入林しました。講師の達磨晋氏、矢田貝繁明氏、須山里実氏、佐藤幹太氏、藤原文子氏に解説をしていただきました。

源流までは谷に沿った山道を歩き、時にはロープを使って崖を越え、沢をいくつも渡り、ひたすらに進んでいきます。

源流までの山道を歩く傍ら、植物の話、両生類や爬虫類の話、きのこの話を聞きました。残念ながら野鳥に出会うことはできませんでしたが、多くのきのこ（菌類）に出会うことができました。

源流の碑に到着し、お昼ごはんを食べながら、日野川の源流や野鳥、植物のお話を聞きました。最後に、参加者の手をお借りして、源流の碑についた苔を取り除き、きれいになった碑の前で写真を撮りました。

源流を目にすると、日本海にそそぐ大きな日野川が、豊かな自然の中を流れる小さな川や水滴から始まっていることを体感することができました。



源流の碑

## 日野川支流の魅力発見ツアー 10月26日

都合山周辺をたたら、野鳥・植物の各専門家とともに探訪（散策）する「日野川支流の魅力発見ツアー」を開催しました。

講師は奥日野ガイド倶楽部の佐々木彬夫会長、日本野鳥の会鳥取県支部の達磨晋氏、藤原文子自然保護監視員と多分野にわたる講師が揃いました。

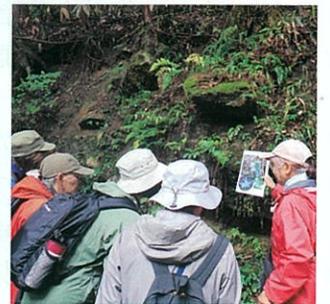
まず、日野町役場で開催された第12回令和のふいご祭りにて「ミニたたら操業見学」のほか、ARアプリ「バーチャルガイド」等を活用し、たたらの知識を深めました。その後、鳥取県指定史跡である都合山たたら跡へと移動し、佐々木会長より都合山たたら跡の解説をいただきました。中でも印象的だったのが「替わり番子」、「お駄賃」の語源はたたら製鉄にあるということでした。

参加者のアンケートからも「初めて知り、目からウロコだった」といった感想があり、たたらの歴史を知るだけでなく、豆知識も学ぶことができ、よりたたら製鉄への興味関心を高めることができました。たたら街道では達磨講師、藤原講師からの野鳥・植物に関する解説の他、参加者からも多くの質問があり、飽きることなく散策ができました。

参加者からは「たたらについて全く知らなかったの、勉強になった」等のお声もいただき、日野川支流の魅力を知る充実したツアーとなりました。



佐々木氏による  
都合山たたら跡の解説



達磨氏（上）と藤原氏（下）  
による植物・野鳥の解説

## 普及啓発活動報告

### 日野学園はばたき科 10月3日

10月3日、日野町立日野学園3年生「はばたき科」でゲストティーチャーとして授業をしました。

授業前半は主に当会ができたきっかけや今年のイベント活動を紹介したり、「美しい日野川を守るために私たちができること」を提案し、日野川のことを普段から勉強している3年生の皆さんにより関心を持ってもらえるきっかけ作りをしました。

授業後半は「日野川流域の豊かな自然」についてクイズ形式で、自然に興味を持ってもらう内容にしました。「アサギマダラの渡り」や滝山公園の珍しい「ハッチョウトンボ」等についても、3年生の皆さんはとてもよく知っていて嬉しくなりました。そして、自然を大切に守ってくれる頼もしさも感じました。

最後にキバナアキギリの花を使って、受粉の仕組みをハチの気持ちになって実際にやってみました。とても楽しそうに仮雄しべの上に指を乗せて、「ああ～、本当の雄しべがおりてきた。」と歓声があがっていました。

こういう実験を通し、自然を守っていくことへの関心を持ってもらえ、充実した時間が過ごせました。



日野川の自然解説



授業の様子

藤原自然保護監視員の季節の植物紹介

# 瑠璃色の宝石みたいなサワフタギ

サワフタギ (別名ルリミノウシコロシ) 沢蓋木

山地の沢沿いや尾根などに生え、沢を塞ぐほど繁るという意味で、この和名がついたと言われています。別名をルリミノウシコロシといい、瑠璃色の果実をつけてウシの鼻ぐりに用いるのに適した材なので、またウシコロシの別名を持つカマツカ (バラ科) の葉や果実に似ているのでという理由から呼ばれているみたいです。

青い果実のなる植物はあまりありません。あっても草本植物が殆どで、木本植物ではサワフタギくらいしかないようです。サワフタギの果実は瑠璃色と言われる鮮やかな青色で、瑠璃というのはアフガニスタンが主な原産地であるラピスラズリのことです。

タンナサワフタギとよく似ていて、区別が難しいと思います。果実が熟してくると、色の違いで区別が簡単になります。サワフタギに対して、タンナサワフタギの果実は黒っぽく熟します。

サワフタギはシロシタホタルガの幼虫の食草で、5～6月にかけて葉の上にいる幼虫を見かけます。黒地に黄色と赤色、独特の模様が目立ちます。私には、トトロの世界に出てくる猫バスに見えてしまいます。



カマツカ果実



シロシタホタルガ



シロシタホタルガ幼虫



サワフタギ果実



タンナサワフタギ果実

## 日野川の源流と流域を守る会

# 会員 募集中!

当会の活動は会員の皆さんに  
支えられています。

「日野川を日本一美しい川」にするため、皆で日野川の源流と流域を守る会の活動に参加しませんか?

当会の活動に興味をお持ちの方は、入会手続きや会費などについて、事務局までお気軽にご相談ください。

【お問い合わせ先】

- ・Eメール・ファクシミリ  
常時受付・内容確認後に返答させていただきます。
- ・電話  
月～金曜日 8:30～17:15 (年末年始、祝日等除く)

## 日野川流域憲章

【前文】

私たちは悠久の時の流れの中で、多くの恵みをもたらしてくれた日野川、その流域のすばらしい自然・環境を守り、日野川の清流化に向けて活動します。

日野川はたくさんの動植物の生命を育み、たくさんの人たちの生活も支えてくれています。

また、日野川流域には伝統ある生活文化・芸術が育まれています。

私たちは日野川の歴史・自然を学び、よく理解して、より豊かできれいな日野川の流れを後世に残すために、みんなで力をあわせて活動します。

そのために、ここに「日野川流域憲章」をつくり、多くの人たちの参加・協力をよびかけます。

【日野川流域憲章の理念】

- ・日野川流域の自然・環境を守り、川と私たちとのすばらしい共存に努めます。
- ・日野川のきれいで豊かな流れが、いつまでも続くように美しい緑の森を守り、育てるように努めます。
- ・日野川流域の交流・連携をすすめます。
- ・日野川流域の歴史・生活文化を学び、その知識を次世代に引き継ぐように努めます。
- ・日野川流域に培われてきた、さまざまな価値ある魅力を大切に、継続的な地域の発展に努めます。
- ・日野川流域を愛する人たちの輪が広がるように努めます。

平成20年8月23日  
日野川流域憲章制定実行委員会